

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ウエルはにーばん		
○保護者評価実施期間	R6年 7月 9日		～ R6年 9月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8世帯	(回答者数) 7世帯
○従業者評価実施期間	R6年 9月 1日		～ R6年 10月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	R6年 11月 15日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育内容は法人代表である公認心理師が、世界各地からより有効性の高いと言われているエビデンスを元に、法人全体でジェネラルモデルを追求しており、限定された特性に限らず、さまざまな発達支援を可能としています。	主観ではなく、様々なアセスメントツールを活用し、より具体的な支援方向を見だし、個々によりよい支援方法を提案していくよう努めています。各種検査結果は、全て公認心理師により評価を出しており、療育への信憑性の高い助言が可能となっています。	アセスメントツールの用い方についても、動画視聴だけでなく、実践研修の機会を増やし、より有効なものとなるよう努めています。
2	研修制度は充実しており、多職種でありながらも、各人が学べる環境の整備をしています。個人ごとのチューターはもとより、総合的な相談役のスタッフリーダーもあり、互いに療育内容を深められるようにしています。必要に応じて、個人のスキルアップの為に資格取得支援もしています。	研修制度の体系化と共に、多岐に渡る支援内容や業務内容の研修動画を作成しており、個人の学習ペースに合わせて、個人ごとに研修を受けることができるようにしています。個人のレベル階層ごとに、必要なスキル分けもしており、安全衛生を基盤とし、遊びの充実、療育支援の充実をはかることができるよう、個人のスキルアップを常に目指しています。	さらなる研修動画の作成に尽力を尽くし、より良い療育環境、教育支援を提供できるよう努めています。
3	ASD、ADHD、知的な遅れ、その他、様々な個性のどんな子どもさんでも療育を受けていただけるよう、様々な環境整備をしています。特にカームダウンエリアについては、必須と考えており、どのエリアで過ごしていても自由に利用して良い空間として、休憩の権利を保障しています。	ASD、ADHD、知的な遅れ、その他、様々な個性のどんな子どもさんでも対応できるよう、構造化の仕方やエリアの分け方などに工夫をしており、特にカームダウンエリアは、様々な感覚ツールを準備しており、感情トレーニング、コーピングスキルUP、休憩することの良さを体験できるよう整備しています。	ワークエリアの充実をはかり、就労へ向けた支援にもつながるよう環境整備をしていきたいと考えます。カームダウンエリアでは、感覚ツールをさらに充実させ、よりリラックスできる空間を作っていきたいと考えます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	緊急時や災害時の対応について、療育支援系の研修は多いが、災害訓練等の内容等については、職員への浸透が弱く、研修制度の再構築を検討していく必要が伺える。	療育熱心な職員が多い為、療育内容以外の側面に対しての、興味関心や重要事項としての認識が弱いように考えられます。	計画的な訓練のみに限らず、抜き打ち訓練の実施なども取り入れ、災害時の備えを、より強固なものにしていきたいと考えます。
2	SNSの活用については、更新頻度の少なさ、職員間の周知も弱い為、今後のさらなる活用を検討していきたい。	日々の療育業務に重点をおき時間を活用していることもあり、情報発信への時間が取れていない現状があります。	役割分担をして、SNS担当者を法人内で決定し、意図的に情報を作成する時間を確保していきたいと考えます。
3	療育知識の情報発信など、書面などでの発行はしておらず、個別提供のみになっています。その為、様々な情報の提供まではできていない現状があります。	送迎時や親子参加時、相談支援などを通して、個別に知識を提供している現状の為、限定的な情報発信になっていると考えます。	役割分担をして、情報提供担当者を法人内で決定し、意図的に情報を作成する時間を確保したり、家族支援の充実に向け、グループ相談の機会も検討していきたいと考えます。